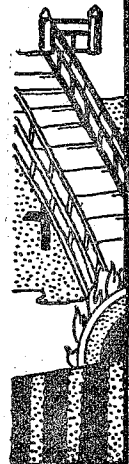


史料



英國道路物語

〔四〕

——道路の發達史——

山下定文

第二章 チュードル朝時代の道路 (つゞき)

十六世紀時代には旅行者の大多數はたとへば國王や女王等の公式鹵簿に於てさへ尙ほ馬背を借りて居つた。車輛運輸機關は儀式用としては可成り古くから使用されては居たが、一般には十六世紀の終頭までは殆んど見られなかつた。古く馬車を用ひた一例を擧ぐれば女王メリーがその載冠式への鹵簿には華麗に飾られた馬車が使用された。然し

常時は女王も皇太子も共に騎馬であつた。倫敦に最初に馬車が現はれたのは一五五五年で、後年エリザベス女王の馬車を造つたウォルター・リボンガルトランド侯ヘンリー・マナーのために和蘭風に模して造つた馬車であつた。一五六四年にはリボン侯は女王のため柱と天井を有する鞍形の有蓋馬車を建造し、一五八四年には更に一層精巧な背後に四本の柱があり、その上に王室の紋章を飾り二本の低い柱には英蘭の権力の擁護者たる獅子像と龍の像を飾つた王座馬

車を建造した。この壯麗な馬車の建造より約十年前、彼は女王の思召に適つて居た間女王用馬車、有蓋車、二輪馬車及幌馬車其の他水上と同様各種陸上用車輛の建造事務所開設權を附與され女王馬車製作師に任命された。だがエリザベス女王の最も愛用した馬車はリボンの設計にかゝるものではないらしく、女王の馭者ウィリアム・ブーンネンが彼の故郷たる和蘭から輸入したものである。大陸ではその當時既に一般に使用され、その建造も勿論英國に於けるよりは進歩して居たのであるから、女王愛用の馬車は輕快、乗心地のよい車であつたらしい。

英國に於ては馬車は最初は極めて珍らしかつた。水の詩人テイラーは云ふ「馬車は實際當時珍奇な怪物であつた。その姿には馬も亦人も驚異の眼を見張つた。」多數の貴族と少數の富有なる平民等は早くも一五八五年には自家用馬車を持つて居た。が、彼等は倫敦以外では殆んど使用しなかつた。當時田舎の道路は馬車にはとても不適當であつたらだ。如何に裕富であるとは云へ田舎の紳士は道路の状態

がこの通りであつたから、これら劣悪な條件を冒して馬車を使用することは出来なかつた。そうして道路上に當時行はれた車輛運輸は上流階級の人々に利用されるものと云ふよりはむしろ下層階級に屬して居つたのである。營業用として旅客を輸送した最初の馬車は粗末な運送人の幌馬車で十六世紀の末期頃に短距離の少數旅客の輸送を開始した。

道路の劣悪な状態は勿論、英國に於ける車輛運輸の發展を遲緩せしめて居た有力なる原因であつた。道路面の平坦でなかつたこと及初期の馬車にスプリングのなかつた事實とを考慮に入れると、この新運輸機關による旅行と云ふものゝ不愉快であつたことは想像に難くない。エリザベス女王は或る時王家の尊敬すべき卒直さで佛蘭西大使に女王が或る理由で特に急速に目的地に到着しなければならなかつたので馬車で旅行したが、そのとき非常に腰を痛めて了つて其の後數日間と云ふものは樂に座ることが出来なかつたと話して居る程である。

馬車の發達を阻害したのはこの道路の状態により以外に

種々なる理由から馬車排撃が可成多かつたのにもよる。その主なるものゝ一つは英國の馬及英人の種族を滅亡に導くだらうと云ふ恐れがある。その理由は英國馬は過勞のため、又英人は運動不足のためだと云ふのである。馬車排撃論者は大きな馬に乗ることは健康な又男性的な運動であるに反し、大きな馬車のピロードのクツションに埋まることは柔弱な又頽廢的な奢侈であるとまくし立てた。この論法は現今でも乗馬と自動車のドライブとを比較して盛んに用ひられて居る。だがエリザベス時代及其の後馬車時代を通じて馬車のドライブは當時の生活者に取り決して呑氣な氣晴しではなく適面の結果を伴ふ可成り過激な運動となつたと云ふことは殆んど疑ふことの出来ぬ事實である。ラウド

大僧正自身が座業に従ふ者に取つて馬車に屢々乗ることの醫療效果あることを認めて居り、そのカンターベリ大僧正に補せられたとき、ストラフォード侯に手紙を書いて、今後ランベス宮殿に住まなければならぬことを歎いて居る。

「あそこに住んだのではわしの健康が一年ももつかどうか

分らん。殆んど毎日倫敦の家とホワイトホールの間の石ころ道を馬車に揺られることが出来ないでは、わしはもう少しも運動をとれず、毎日宗教裁判所に解で亡つて行かなければならないのだから」とつばやいて居る。

チュードル朝時代の旅行は緩慢悠長な方法だつたように見えるが、然し不當なスピードに對する反感は老人の自己満足心とうまく一致したのである。高速度運輸は一般には當時必要でなく又希望もされなかつたのではあるが、これら高速度運輸機關はその當時でも充分な富と權力とを所有する者ならば利用することが出来たのである。樞機員ウオルセイは完全な私設郵便制度を創設したが、この郵便によりその當時殆んど例のない程の速度を以てブラッセルとの間の通信が可能であつた。當時のスピード界に於ける個人としての最高レコードはロバートカレイ卿がエリザベス女王の崩御を後繼者となる筈のスコットランド王ゼームス一世に一番に知らせようとの熱望よりなせるエヂンバラへの旅行であつた。卿の記録によると、第一夜は一五三哩の

遠距離にあるドンキヤスターまで馬を驅り、途中落馬してそのため數時間遅れたにも拘らず、その走破時間は六十時間を下らなかつた。然しカレイ卿は自ら云ふ如く旅行速度のレコード破りだつたらしい。一五九九年には、卿は倫敦パーウイツク間を十二日で走破して、二千磅の賞金を獲得した。ゼームス一世が英國王位に即くためエデンバラからロンドンへの旅行に要した日数は僅かに五週間であつた。

第三章 スチユアート朝時代の道路

エリザベス女王治下の英國はその領土が擴大し、従つて商業は發展し、工業は進歩したから、十七世紀の初期には長距離運輸が著しく増加した。大部分は當時未だ馬又は徒歩による交通であつたが、既に車輛運輸の増加の徴候はあつた。この傾向は特に倫敦其他の大都市附近に於て著しかつた。このような車輛運輸の出現の結果、道路は一時的には以前より劣惡となつた。

英王ゼームス一世に取つて、道路の状態就中王のよく通

過する道路の状態に就ては異常な關心を有して居た。王はケンブリツツシャアのロイストンで多く暮すことを好まれたので、同地へ通ずる道路を良好ならしめたいと云ふ考へで王の頭は常に一杯であつた。そうしてロイストン及ニューマーケツトに至る主要道路の通ずる諸郡の治安判事に道路修繕に關して長文の、時には辛辣な信書を發して居た。當時の地方當局は明らかに道路修繕技術が遅れて居つた。一六〇九年、王室道路測量師トーマス・ノートンは當局の缺陷を訴へたる請願書の中に於て次のような希望を述べて居る。「余は當局の怠慢を問責するの意志は有さぬが、余に道路修繕着手竝に事業完成に必要な荷車並勞働者の徵發の權限を附與され度い」このトーマス・ノートンは國王の道路監督事務所を管理した最初の人である。多分、この監督事務所は初めは臨時の又試験的のものであつたらしい。それは一六一六年に始めて、彼を終生「道路指導並測量師」に任ずる旨を登記することが許可になつたことから考へるとそう推定し得るのである。一六一九年になると、

彼は終生特定諸郡に於ける道路修繕を怠れる者に對し罰金を課することを許されたので、この地位は全然利益のないものでもなかつたようだ。

道路修繕に従事せる人々は道路の悲惨な状態は一般に重量馬車による損傷のためだとした。當時はその交通状態に適合せる道路が出来ると云ふような考へは何んにも起らなかつた。その代りに一六一八年にはこの種馬車の使用制限の宣言が發せられた。然しこれ位のことでは運輸の發展を阻止することは常に不可能である。この制限宣言にも勿論のこと、又その四年後に四輪荷馬車又は幌馬車は道路を破壊するの理由より使用を禁止され、又二輪荷馬車は約千二百疋以上の重量貨物の積載並五頭以上の馬による牽引を禁止し、これに對する違反者は總てかの恐るべき星法廳（宗教裁判所）に於て起訴さるべき旨が規定されてあつたにも拘はらず、殆んどこれらに注意するものもなかつたのは敢へて驚くに足らぬことである。

ゼームス一世はその治世の始めから道路の發達を獎勵して居たけれども、成功したようにはまあ考へられない。一

六二二年、樞密院はサレイ、エセツクス、ミドレツクス、ハーツフォード、ケンブリツヂ、及ハンチントン等の治安判事に對して、各所管地の道路は著しく頽廢せるに付、冬期以前にその修復を直接に命令さるべし、就中國王の通御せらるることある道路には特に留意あり度しとの通達を發した。その翌年王座裁判所長レイ侯及ジョン・ドツドリツヂ卿はロイストン附近の道路修繕の世話をするため委員を任命し、その修繕費用は町、百家村、又は必要なれば郡に負擔せしめた。然し以上に述べたようなあらゆる脅嚇も、訓戒も効果がなかつた。それより二ヶ月後、樞密院は更に再び次の如き訓戒をエセツクス治安判事になした、「國王は道路就中陛下の屢々通御あらせらるゝ道路の修繕に對し、何等善良なる管理者の注意を拂はざることに對し御立腹あらせられる」若し町にしてその道路の維持費の負擔に堪えること能はざるならば、百家村又は全郡に課税せらるべく、その工事進捗状況は十二日以内にしなければならぬ。

かく強制せらるゝに及んで初めて治安判事等は意を動かして、たとへ道路を改良せぬまでも、少くとも破壊すること

を防止した。ハーツフォードシャイヤーの治安判事は行幸道に對し經常費を除き道路に四百磅、橋梁に百磅を支出せるが、これら道路橋梁は重量車輛により損傷せしめらるゝを以て、常に修繕し置く能はず、依つて今回の修繕は盛夏期に至る迄より保證出來ず同期に至らば再びこの件に就き考慮すべしと報告して居る。

エセツクスの治安判事は、オイヤアンドターミナー委員が二年若くは三年の任期を以て任命せらるべく、少數の判事等は道路法令に關する疑義を解釋する權限を附與さるべき旨を既に報告して居たが、更に次の如き聲明をなした。

「實際問題として、判事等は慎重に道路修繕に留意し居れるも、運送業者等は布告により禁ぜられたる四輪車輛の使用並多數馬匹による牽引を一時差控へしも、近時に至り再び使用し始めたれば、道路を常に完全なる状態に置く能はず」と。

かゝる不平が多かつたので、四輪車輛に對する禁止布告は更に嚴重に取締るべきよう命令を發した。

ミツドルセツクスに於ける道路は車輛により損傷せらる

こと極めて僅少なることが明瞭であつたので、同地方の治安判事等はその管轄下の道路状態に關し異つた遁辭を設けて居た。彼等の樞密院に對する報告には次のように書いてある。負擔能力を充分に有する知名の者等が道路修繕費の負擔を拒否せるにより、従つて賤民等も亦負擔を肯せず遂に道路を荒廢せしめたり」と。勿論かゝる遁辭も教會執事監軍保安官、竝若干の倫敦教區の道路監督達が屢々訴へる不平と同じく、總べてが虚構ではなかつたようだ。

國王は速く改良しろと不滿の意を表せられたり、抗議をされたり、脅かされたり、命令されたりし、判事は改良を實行せんとする意志を示さず、その無能を表白したりして、しばらくの間かゝる紛糾状態が續いた。或る時國王はその旅行の途次上下左右に揺り飛ばされて到底我慢出來るものではなかつたので。むか腹を立られて散々に罵つて仰になるには、「倫敦ロイストン間の道路は全く改良されて居らん、ウエアのコーリンス旅舎附近は全く法外で、朕は到底通することは出來んと思つたぞ」而して國王は早速樞密院に命じてその罪が道路測量師にあるか、或は郡當局にあ

るかを調査し、適切なる道路改良方法を講ぜしめられた。樞密院議長は國王御通過の道路の修繕及その修復の義務を怠れる者の處罰を命令せる旨を慰撫的に言上した。同様の命令が一定期間を置いて道路當局に對し發せられ、之に對し相變らず同様の回答に接した。即ち「エセツクスの貴族並上流階級の者等は道路修繕費用を負擔し、且その費用の一部として各住民に課税し、更に主として道路を破壊する貨物車輛に通行税を課せり。ハアーツフォードンシャイヤ一の住民は道路費として巨額を支出せるにより、同一額の通行税を貨物車輛に附課することを要望せり。該通行税収入は諸教區に對する税収入とともに直に損傷箇所を修復するに支出すべし」

個人的理由よりしてゼームス一世は主としてロイストン道の危険なる状態を憂慮せられたのであるが、各地の幹線道路の平常の状態もまことにひどいものであつた。従つて何か特別の事件のあるに際しては急に通行出来るよう一時的方法が講ぜられた。その一例をあげれば、チャアシス一世が皇太子のとき西班牙王の王女と御成婚のことが略々

決定せるに當り、リツチモンド侯は他の六人の有名な貴族達とともにペーデントの準備をするためサザンプトンに至り、西班牙王女の歓迎會のため道路修復の世話をした。當時の道路の若干は全然放置せられて居たので、ある場合には道路の一部は非常に荒廢甚だしく、その道路に沿ひ新に道を造らなければ如何なるものでも全く通行は出来なかつた。このように道が通れなければ新に道を開くと云ふことは全く合法的な行爲である。何んとなれば、たとへ國王も人民も道路の自由通行権しか持たないにしたところが、又若し通行権もないとしても、島の穀物や牧場をふみにじつてもどこでも、通れるわけだから。時には自己所有地上を通る道路を他用に供することを一定條件のもとに一人人に許可されて居ることもあつた。たとへば、一六二一年、トーマス・ホルト卿は、庭園を改造するため廢道の代替物として他に新道路を建設し、且それを維持並修繕することを條件として特定道路の廢止を許可された。

道路が等閑に附されたことは決して地方道路に限られて

居なかつた。倫敦附近の道路のみならず、ホワイトホール王宮の近所の道路ですら良好とは云へなかつた。一六二六年には、ドーゼット伯はジョン・ダンバース卿を通じて聖マーチン・イン・ザ・フィールド教區の道路測量師に嚴重な通告を發せねばならなかつた。伯はその通告の中に於て「聖ジェームス公園の西門とチェルシー原の一端にある石橋との間の道路の修繕が少しもなされて居らぬことはまことに怪しからぬ。若し翌朝八時迄に満足なる回答をなさぬならば余はそれを侮辱せるものと考へ、余はその罪を糾弾し、且つ余の最も適切なりと信する罰を興へてやらう。」とまで極言して居る。然しながらこのときも道路測量師は自己の曠職に對する責任回避の口實を若干もつて居たように思はれる。何んとなれば、彼等測量師は必要なる基金を獲得すること能はなかつたからだ。即ち教區民の大部分は修繕費の負擔を肯えんぜず、且その地位が非常に高まつて居たので、これら教區民を威服することは困難であつた。これらの連中は税金滯納者名簿に乗せられても一向平氣な人々であつた。たとへば、これらの連中には國王

の寵臣バツクキンガム候とか六人の伯爵や、それ以下の貴族の男女、とか、又はエディミイオン・ポーターやイニゴ・ジョンズとかの有名な著名の人物等が居た。測量師監督バトーマス・ノートンの最後の報告は一六二五年に提出せられたが、この中には當然にロイストン道路に關する事項があつた。多分、道路改良の困難は彼の死ぬまで、或は兎に角、隱退の日まで彼を惱ましたに違ひない。この報告の翌年に今一人の測量師が歴史にあらはれて來て居る。トーマス・ヘツプスは國王道路の測量師としての能力により倫敦附近の國王陛下専用道路の橋梁竝門を建設し、企劃せる報酬として一〇一磅六志を下賜された。彼は同時にロングエーカーの道路竝にチェルシー及フルハム間の道路を含む他の道路を特に注意して修復するように命令された。ヘツプスはその酬いられぬ仕事を嚴正忠實に實行しようであり、又道路掃除夫の怠慢及地方當局の事務滯滞に對してたへず樞密院の注意を喚起しつゝ、道路の状態を良好ならしめんとしてその關係當局者と出來る限り積極的に協力して居つた。然し、實際には王室付道路測量師は絶えざるそ

うして激しい抗議をなす権限を除いては殆んど權力はなかつたように思はれる。

ゼームス一世が崩御し、隨つて王が常になした激しい批難がないようになつても、ロイストン道路に就てもう何も聞かなくなつたのではなかつた。一六三一年には、全事業が再び開始された。同年道路の状態に關して諫告されたのに對して、地方治安判事等は四輪荷車や牽引獸の過多に對する不平を繰返すに過ぎなかつた。違反者の主なるものは麥芽製造人であつた。而して、治安判事等はこう云ふことを云つて居る。麥酒の原料を運ぶにはミツチエルマス及メイ間の道路のうちロイストンからウエアームまでは馬脊に依らしめねばならぬ。同箇所の道路は軟粘土質の上に建設されて居るので、馬車の通行により最も破壊される。道路測量師監督も亦麥芽（麥酒の原料）輸送馬車の通行禁止の適用を強調した。然し、絶えずあらゆる機會をつかんでこれら馬車の壓迫に勉めたけれども、この主張に對しては最初一般からは何等の注意も拂はれなかつた。其後數年經過してから、始めて政府はその言の適切なるを知り馬車に對

して禁止布告の適用を命令し、その見せしめとして違反せる麥芽製造人の若干をマーシャルシー監獄に收容することを決定した。馬車に對する禁止布告は一六三五年に再び發布せられ、今後一般運送人又は其他の者は普通道路上に於ては千疋以上の積載量を有する馬車又は車輛は通行を禁止し、又その牽引用として馬五頭、又は牛四頭と馬二頭、若くは牛六頭以上の使用をも禁止すと規定した。

一六三四年の夏、國王のスコットランド行幸が計劃され、行幸の沿道の道路當局に對し先年の國王の意向として、道路は少くとも通行出来る程度に改修すべしと通達された。各郡は忠順にその全力を盡すべき旨を誓つた。ルットランド及ダルハムからは道路が完全無缺となつた旨を保證し來り、ハーツフォードからは道路及橋梁が修復せられ、且つ一般道路は馬車に對し満足なものでないので、私有地に新道を建設した旨の愉快な報告が來た。ただノツチンガムからだけは稍々希望薄き次のような回答が出來た。五月までに道路を完成せしめる爲出来るだけのことはしたが、天候不良のため修繕工事が可成り妨げられた。（未完）